



2019年6月3日

報道各位

**日本最大級のクリエイティビティの祭典、エントリー受付開始
「2019 59th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」6月3日～
～各界のクリエイターや著名人ら多彩な審査委員が集結～**

一般社団法人 ACC（英文名：All Japan Confederation of Creativity、東京都港区、理事長：高田坦史）は、あらゆる領域のクリエイティブを対象とした、「2019 59th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」(<http://www.acc-awards.com/>)のエントリー受付を、本日2019年6月3日（月）より開始いたします。



各部門 審査委員長

応募部門は、フィルム部門（テレビCM、Online Film）、ラジオ&オーディオ広告部門（ラジオCM、オーディオ広告）、マーケティング・エフェクティブネス部門、ブランデッド・コミュニケーション部門（デジタル・エクスペリエンス、プロモーション/アクティベーション、PR、デザイン）、メディアクリエイティブ部門、クリエイティブイノベーション部門の全6部門です。

本年もさまざまな業界の第一線で活躍するクリエイターや有識者をはじめ、フリーアナウンサーの宇賀なつみ氏（ラジオ&オーディオ広告部門）、国際フェンシング連盟 副会長/日本フェンシング協会 会長の太田雄貴氏（メディアクリエイティブ部門）など、各部門とも多彩な顔ぶれの方々に審査いただきます。



エントリー期間は、2019年6月3日（月）10時～7月3日（水）18時まで。作品の応募は、「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」特設サイトにてユーザー登録後、マイページよりご応募いただけます。

入賞作品は、10月2日（水）に同特設サイトにて発表、11月1日（金）の贈賞式・記念パーティにて表彰いたします。

各部門の審査委員長メッセージおよび審査委員紹介等、詳細は別紙の通りです。

「2019 59th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」概要

<topic> 新たに「オーディオ広告」のカテゴリーを創設

従来の「ラジオCM部門」を「ラジオ&オーディオ広告部門」へと名称を変更し、Aカテゴリー（ラジオCM）、Bカテゴリー（オーディオ広告）の2カテゴリーで作品を募集いたします。

コネクティッドカーやスマートホームなどIoT化の促進により、今後、音声インターフェースになる企業のサービスは増加していくと予想されます。また、体験型イベントなどでは音声コンテンツをベースとした作品が数多く生まれており、これら音声をベースとしたコミュニケーションは、デジタル時代に大きな可能性を秘めています。こうしたことを背景に、ACCでは本部門を通じ、音声広告の可能性を広く議論・評価し、また、コミュニケーション技術のさらなる進化のため、世の中に優れた事例を発信していく考えです。

http://www.acc-awards.com/2019fes/radio_audio/

【スケジュール（予定）】

エントリー期間 : 2019年6月3日（月）10:00～7月3日（水）18:00まで
前期料金対象期間 : 6月3日（月）～6月20日（木）23:59まで
後期料金対象期間 : 6月21日（金）～7月3日（水）18:00まで
入賞作品発表 : 2019年10月2日（水）
贈賞式・記念パーティ : 2019年11月1日（金）

【部門構成および参加資格】

■フィルム部門

- ・Aカテゴリー（テレビCM、地域テレビCM）

2018年7月1日～2019年6月30日までの間に、一般社団法人日本民間放送連盟に加入している放送局において初放送されたCMが対象。

- ・Bカテゴリー（Online Film）

2018年7月1日～2019年6月30日までの間に、Web上で公開されている映像広告。

初公開日は問わない。



■ラジオ & オーディオ広告部門 ※部門名変更、B カテゴリー新設

- ・A カテゴリー（ラジオ CM、地域ラジオ CM）

2018年7月1日～2019年6月30日までの間に、一般社団法人日本民間放送連盟に加入している放送局において初放送されたCMが対象。

- ・B カテゴリー（オーディオ広告）

2018年7月1日～2019年6月30日までの間に、日本国内で放送・公開されたもの。
広告を目的に、ミニFMやインターネット、イベント・展示会等で放送・公開された音声コンテンツが対象。

■マーケティング・エフェクティブネス部門

以下のいずれか1つ以上の施策を行っていること。

- ・2018年7月1日～2019年6月30日の間に、一般社団法人日本民間放送連盟に加入している放送局においてテレビCM、またはラジオCMが放送されたキャンペーン施策。
- ・2018年7月1日～2019年6月30日の間に、ムービー、サウンドコンテンツ、新聞・雑誌、Web、イベント等で展開したキャンペーン施策。

※継続中のキャンペーンであれば、過去にエントリー歴のあるものも応募が可能です。

ただし、過去にエントリーした際と、「成果」の違いを明確に示してください。

■ブランデッド・コミュニケーション部門

2018年6月1日～2019年6月30日の間に、ローンチもしくは、リニューアルし展開されたブランデッド・コミュニケーション（広告/キャンペーン/ブランデッド・コンテンツ）が対象。

※2018年6月1日～6月30日の作品は、昨年応募されていないことが条件です。

※複数の部門、カテゴリーへの応募は可能です。

- ・A カテゴリー：デジタル・エクスペリエンス

デジタルテクノロジーを活用した表現における卓越したデザインと優れたユーザーエクスペリエンス、クリエイティビティとクラフトマンシップを表彰します。

- ・B カテゴリー：プロモーション/アクティベーション

商品やサービスの購入や利用に対して、ターゲットの積極性を促すことができた最も新しく創造的なアイデアを表彰します。

- ・C カテゴリー：PR

社会やコミュニティにおいて新たな合意形成を図ることで、ブランドと生活者の間の信頼関係を築き、生活者の意識や態度を変容させたプロジェクトを表彰します。

- ・D カテゴリー：デザイン

ブランドアイデンティティの定義や、ブランドメッセージの認識や理解に強く機能したビジュアル表現のクラフトマンシップとクリエイティブ性を表彰します。



■メディアクリエイティブ部門

2018年6月1日～2019年6月30日の期間に実施された（放送・出稿等された）、メディアのアセットを活用した仕掛けや取り組み。

※2018年6月1日～6月30日に実施されたものについては、昨年応募されていないことが条件となります。

■クリエイティブイノベーション部門

未来を創り出す、世の中を動かす可能性のあるアイデアとテクノロジーとの掛け算で産み出されたプロダクト&サービスと、プロトタイプ。

※上市または社会実装、ローンチの時期は問いません。

昨年エントリーしたものでも応募が可能です。その場合は、従前のものとの違いや差分を明らかにしてください。

【審査委員長】

■フィルム部門：

多田 琢（TUGBOAT／クリエイティブディレクター、CMプランナー）

■ラジオ & オーディオ広告部門

嶋 浩一郎（博報堂 執行役員 兼 博報堂ケトル代表取締役社長 クリエイティブディレクター）

■マーケティング・エフェクティブネス部門

小和田 みどり（ライオン／コミュニケーションデザイン部 部長）

■ブランデッド・コミュニケーション部門

菅野 薫（電通、Dentsu Lab Tokyo／エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクター）

■メディアクリエイティブ部門

箭内 道彦（クリエイティブディレクター／東京藝術大学学長特別補佐・美術学部デザイン科教授）

■クリエイティブイノベーション部門

暦本 純一（東京大学 教授／ソニーコンピュータサイエンス研究所 副所長）

<各部門の審査委員長メッセージおよび、審査委員紹介>

資料1、資料2をご参照ください。

<「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」特設サイト>

URL：<http://www.acc-awards.com/>

<主催：一般社団法人 ACC>

URL：<http://www.acc-cm.or.jp/>

<2018 年度 贈賞式の模様>

広告業界をはじめ、芸能、政治、テクノロジーなど、さまざまな分野から総勢 700 名超の列席者を迎え開催されました。

■贈賞式・記念パーティフォトギャラリー：<http://www.acc-awards.com/gallery/2018/>



<コラボレーション>

■「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」

フィルム部門 B カテゴリー（オンラインフィルム）では、米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」BRANDED SHORTS 部門（<http://brandedshorts.jp/about/>）とのコラボレーションを実施。

ACC ファイナリスト以上に入賞した作品（10 月 2 日発表予定）は、エントリーフィー無料で同部門への応募が可能となります。



BRANDED SHORTS

■「ゲッティイメージズ」

gettyimages®

マーケティング・エフェクティブネス部門、ブランデッド・コミュニケーション部門、メディアクリエイティブ部門、クリエイティブイノベーション部門の各応募資料に、ゲッティイメージズの画像素材を無料で使用することができます。

<ゲッティイメージズご利用案内>

<http://www.acc-awards.com/other/gettyimages/>



【ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS とは】

「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」は、テレビ、ラジオ CM の質的向上を目的に、1961 年より開催されてきた広告賞「ACC CM FESTIVAL」を前身とし、2017 年よりその枠を大きく拡げ、あらゆる領域におけるクリエイティブを対象としたアワードにリニューアルしました。

名実ともに、日本最大級のアワードとして広く認知されており、総務大臣賞／ACC グランプリは、クリエイティブにたずさわる人々の大きな目標となっています。

【ACC とは】

一般社団法人 ACC は、よい CM の制作と放送の実現に寄与することを目的として、1960 年に公益法人として設立。2013 年に一般社団法人へと移行しました。

ACC は、広告主・広告会社・制作会社・放送会社の 4 業種のメンバーを中心に構成され、業種の枠を超え、グローバルな視点から日本のクリエイティビティの発展に貢献すべく活動しています。

本件に関するお問い合わせ

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ユニオンビル 6F

TEL : 03-3500-3261 FAX : 03-3500-3263 URL : <http://www.acc-cm.or.jp>

一般社団法人 ACC 担当：平川

資料 1

「2019 59th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」

各部門 審査委員長紹介およびメッセージ

■フィルム部門 多田 琢氏 ※新任



TUGBOAT

クリエイティブディレクター、CMプランナー

【受賞歴】

クリエイター・オブ・ザ・イヤー、TCC グランプリ、ADC 賞、ADC 会員賞、ACC グランプリ、ONE SHOW Gold など

【主な仕事】

ペプシ「桃太郎」、TOYOTA「ハリアー H.H.」ダイワハウス「ここで、一緒に」、サッポロ黒ラベル「大人エレベーター」、宝くじロト「ロトもだち」シリーズなどのCM。

『新しい地図』のブランディング。

映画「SURVIVE STYLE 5」の原案・脚本、「クソ野郎と美しき世界」の原案を担当。

【プロフィール】

1963年9月20日生まれ。

87年早稲田大学第一文学部卒。同年（株）電通入社。

99年クリエイティブ・エージェンシー「TUGBOAT」を設立。

ADC 会員

【メッセージ】

世の中全員が発信者になれる時代ゆえに、
その声に怯え、なかなか自由に伸び伸びと表現できない。
時代のせいにするのは簡単だが、
むしろこの時代を逆手に取ろう。
君たちの「僕らの時代」のために。
令和元年のACC。
フィルム部門の審査は、
五七五という限られた文字の中に宇宙を作り出すように、
条件や制約の中だからこそ生まれる
研ぎ澄まされた広告映像表現の技術を評価したい。
人の「感情」を揺さぶるような「企画力」にフォーカスしたい。

新しく若々しい作品が多く集まることを期待して、お待ちしております。

■ラジオ&オーディオ広告部門 嶋浩一郎氏

※部門名変更



博報堂 執行役員

博報堂ケトル 代表取締役社長 クリエイティブディレクター

【主な仕事】

資生堂企業広告・J-WAVE 企業広告・三越伊勢丹企業広告・本屋B & Bなどの経営・本屋大賞の運営・ラジオ番組「渋谷慶一郎と嶋浩一郎のラジオ第二外国語」（ラジオ日経）・雑誌「ケトル」など 著作「ブランドメディアの作り方」・「なぜ本屋に行くとアイデアが生まれるのか」など多数

【プロフィール】

93年博報堂入社。コーポレートコミュニケーション局で企業の情報戦略にたずさわる。01年朝日新聞社に出向。スターバックスコーヒー等で発売された「SEVEN」編集ディレクター。02-04年博報堂刊「広告」編集長。04年本屋大賞設立に参画。現在もNPO本屋大賞実行委員会理事として「本屋大賞」の運営を行う。06年博報堂ケトル設立。統合キャンペーンを多数手がけると同時に、雑誌「ケトル」編集長などコンテンツビジネスも展開。12年ブックコーディネーター内沼晋太郎と下北沢に本屋B & Bを開業。

【メッセージ】

ラジオCMの特徴は聴覚だけでコミュニケーションを成り立たせているところです。それは弱点のように聞こえますが、大きな長所です。

ひとつの感覚しか使わないので、想像力がどこまでも広がるメディアです。

CMの作り手の力量によってリスナーをどこまでもつれていくことができるのです。

また、ひとつの感覚しか奪わないので「ながら」ができるメディアです。

CMの作り手の力量によって生活のあらゆるシーンに忍び込むことができるのです。

そんな、素のメディアであるラジオの新しい可能性を是非見たいと思います。

また、今年からあらたなカテゴリーを設けます。

デジタル化・IoT化によって、音声コンテンツをベースにした企業のサービスも様々生まれています。

体験型イベントなどでも音声コンテンツは注目されています。

あらたにラジオCM以外の音声広告も広く募集し、評価していきたいと思います。

どんな作品が集まるか楽しみにしています。

■マーケティング・エフェクティブネス部門 小和田 みどり 氏



ライオン
コミュニケーションデザイン部 部長

【プロフィール】

ライオン株式会社入社
販売店営業担当（西友・イトーヨーカドーなど）
商品開発（ヘアケア・ヘアメイク担当）
宣伝部（新聞・雑誌・TV スポット担当）
2008年10月 パーソナルケアを開発・販売する子会社
「株式会社イシュア」を立上げ代表取締役就任
2015年1月 ライオン株式会社 宣伝部長
2017年10月 コミュニケーションデザイン部に名称変更

【メッセージ】

情報過多や接触メディアの多様化により広告が効かないといわれています。しかし、私たちが審査を務める ME 部門には昨年も「マーケティング戦略×クリエイティビティ」で成果をあげた施策がたくさんありました。規模の大きさではありません。

また昨年から最終審査が公開審査になりました。担当者の熱い想い、苦労した事、自分たちが心動かされた事などプレゼンテーションを通じて書面では見えなかったところまでよりリアルに伝わってきました。そしてまだまだ広告を含むコミュニケーションには人を動かすパワーがあると再確認しました。さあ、今年はどんなアイデアでわれわれ審査委員が悩まされるのか。今から楽しみです。

■ブランデッド・コミュニケーション部門 菅野 薫 氏



電通/Dentsu Lab Tokyo

エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター

【主な作品・仕事】

本田技研工業インターナビ「Sound of Honda /Ayrton Senna1989」、Apple Appstore の 2013 年ベストアプリ「RoadMovies」、東京 2020 招致最終プレゼン「太田雄貴 Fencing Visualized」、国立競技場 56 年の歴史の最後の 15 分間企画演出、GINZA SIX のオープニング CM「メインストリート編」、サントリー山崎蒸溜所「YAMAZAKI MOMENTS」、NTT ドコモ「FUTURE-EXPERIMENT.JP」、Björk や Brian Eno や Perfume との音楽プロジェクト等々活動は多岐に渡る。

【受賞歴】

ACC グランプリ・総務大臣賞（2014 年、2015 年、2017 年、2018 年）/ JAAA クリエイター・オブ・ザ・イヤー（2014 年、2016 年）/カンヌライオンズ チタニウム部門 グランプリ / D&AD Black Pencil（最高賞）/ One Show -Automobile Advertising of the Year- / London International Awards グランプリ / Spikes Asia グランプリ / ADFEST グランプリ /東京インタラクティブ・アド・アワード グランプリ / Yahoo! internet creative award グランプリ / 文化庁メディア芸術祭 大賞 / Prix Ars Electronica 栄誉賞 / STARTS PRIZE 栄誉賞 / グッドデザイン金賞など、国内外の広告、デザイン、アート様々な領域で受賞多数。

【プロフィール】

2002 年電通入社。データ解析技術の研究開発業務、国内外のクライアントの商品サービス開発、広告キャンペーン企画制作など、テクノロジーと表現を専門に幅広い業務に従事。

【メッセージ】

昨年、審査委員長を拝命したのを期に、形式や枠組みを超えたあらゆる新しい「ブランデッド」なアイデアを発見することを目的に、「ブランデッド・コミュニケーション」部門を新設しました。結果、前年比 2.5 倍近い 462 本の応募があり、これまでの日本の広告賞では褒められることのないアイデアのいくつかを発見して評価することが出来たのではないかと考えています。当然、全ては拾いきれませんでしたし、新しい試みだっただけに応募要項や審査のプロセスに関して、まだまだ検討の余地がありました。しかし、常に賞の枠組みよりアイデアが先行していることの方が健全と考えています。昨年以上に多くの視点で、良い仕事を発見出来るよう、昨年の経験を生かして少しずつ進化していきたいと考えています。

この賞で、新しい才能が発見されたり、日々の工夫や努力が取り上げられることで、少しでも業界全体の意識や、技術向上、領域の拡張に貢献できればと考えております。

どれだけ可能性が発見出来るかは、予想を超えた応募がたくさんされるか次第です。そして、何より審査委員のアイデアを発見する能力次第です。だから、めちゃくちゃ審査は大変なんです。それでも数多くの応募をお待ちしております。

■メディアクリエイティブ部門 箭内 道彦 氏 ※新任



クリエイティブディレクター
東京藝術大学学長特別補佐・美術学部デザイン科教授

【プロフィール】

1964年福島県郡山市生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業後、博報堂を経て、2003年独立。風とロックを設立する。

タワーレコード「NO MUSIC, NO LIFE.」、リクルート「ゼクシィ」、サントリー「ほろよい」、東京メトロなど、既存の枠に捉われない数々の話題の広告キャンペーンを長く手掛ける。

2008年から3年間MCを務めたNHK「トップランナー」を始め、NHK Eテレ「福島をずっと見ているTV」、TOKYO FM/JFN「風とロック」、ラジオ福島「風とロック CARAVAN 福島」等、各番組のレギュラーパーソナリティーとしても活動。創刊100号を数えるフリーペーパー「月刊風とロック」の発行人・編集長でもあり、2011年の紅白歌合戦に出場したロックバンド「猪苗代湖ズ」のギタリストでもある。

2015年、福島県の情報発信を統括する「福島県クリエイティブディレクター」に着任。2016年にはコミュニティFM「渋谷のラジオ」（FM87.6MHz）を開局、理事長を務めている。

風とロック芋煮会実行委員長、福島県しゃくなげ大使、郡山市フロンティア大使、郡山市音楽文化アドバイザー、東京コピーライターズクラブ副会長、東京2020オリンピック・パラリンピック文化プログラム NIPPON フェスティバル テーマ「東北復興」クリエイティブディレクター。

【メッセージ】

世界を平和に、幸せにする、新しいアイデアを。

みんなが笑顔に、元気になる、素敵なクリエイティブを。

違う互いを、思いやり合える、強く優しいメディアを。

よろしくお願ひします。

■クリエイティブイノベーション部門 暦本 純一 氏



東京大学 教授

ソニーコンピュータサイエンス研究所 副所長

【受賞歴／審査委員歴／主な作品・仕事】

- ・グッドデザイン賞 (2004, 2009, 2012 ベスト 100, 2016)受賞
- ・日本文化デザイン賞(2003)、iF Communication Design Award (2005) 受賞
- ・グッドデザイン賞審査委員(2011-2015)、国際学会議長(ACM UIST, Ubicomp 等)
- ・研究成果：NaviCam, SmartSkin, Squama, JackIn, SottoVoce

【プロフィール】

東京大学情報学環教授・ソニーコンピュータサイエンス研究所副所長。

世界初のモバイル AR(拡張現実)システムを 90 年代に試作、マルチタッチの基礎研究を世界に先駆けて行うなど常に時代を先導する研究活動を展開している。現在は人間拡張（ヒューマンオーグメンテーション）、人間と AI の融合ためのテクノロジーを追求。日本文化デザイン賞、ACM SIGCHI Academy などを受賞多数。

【メッセージ】

未来を創るイノベーションを、ACC から世界へ

「ビッグアイデア×テクノロジー」で産み出されたプロダクト&サービスと、プロトタイプを評価するクリエイティブイノベーション部門。

テクノロジーあり、アイデアあり、エンタテインメントもありという幅広い作品が揃うこの部門では、現時点でのビジネスの大きさよりも、未来を創り出す、世の中を動かす挑戦を評価します。

そのアイデアが終着点ではなく、使い方の応用の輪が広がっていく、相乗効果がイメージできることが「イノベーション」です。そんな、未来に種を撒くイノベティブな作品をこの部門から発信していきたいと考えています。テクノロジーでイノベーションを起こそうとしているスタートアップ、または研究機関からの挑戦も待っています。



資料 2

「2019 59th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」

各部門 審査委員一覧

(敬称略、審査委員は五十音順)

■フィルム部門

審査委員長

多田 琢 (TUGBOAT/クリエイティブディレクター、CMプランナー)

審査委員

井村 光明 (博報堂/第三クリエイティブ局 クリエイティブディレクター)

えぐち りか (電通/アートディレクター、アーティスト)

榎本 卓朗 (ENOAD/クリエイティブディレクター、アートディレクター)

小国 士朗 (小国士朗事務所 代表取締役、プロデューサー/注文をまちがえる料理店 常務理事)

権八 成裕 (ゴンパ/CMプランナー、クリエイティブディレクター)

佐々木 宏 (連/クリエイティブディレクター 兼 世話役)

佐藤 雄介 (電通/クリエイティブディレクター、CMプランナー)

佐藤 渉 (TYO SPARK/ディレクター、プランナー)

澤本 嘉光 (電通/シニア・プライム・エグゼクティブ・プロフェッショナル、
エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター)

関根 光才 (GLASSOFT/NION 共同設立者/ディレクター)

田中 裕介 (CAVIAR/映像ディレクター)

長久 允 (映画監督)

山崎 隆明 (Watson-Crick/クリエイティブディレクター、CMプランナー)

ほかご依頼中

■ラジオ&オーディオ広告部門

審査委員長

嶋 浩一郎 (博報堂 執行役員 兼 博報堂ケトル 代表取締役社長 クリエイティブディレクター)

審査委員

秋吉 健太 (ヤフー/Yahoo!ライフマガジン 編集長)

井村 光明 (博報堂/第三クリエイティブ局 クリエイティブディレクター)

宇賀 なつみ (aestas/フリーアナウンサー)

小宮山 雄飛 (GENIUS AT WORK 代表取締役/ホフディラン/渋谷区観光大使・クリエイティブアンバサダー)

澤本 嘉光 (電通/シニア・プライム・エグゼクティブ・プロフェッショナル、
エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター)

東畑 幸多 (電通/エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター、CMプランナー)

西田 善太 (マガジンハウス/BRUTUS 編集長)

橋本 吉史 (TBS ラジオ/プロデューサー)

秀島 史香 (FM BIRD/ラジオ DJ、ナレーター)

福本 ゆみ (福本ゆみ事務所/コピーライター、クリエイティブディレクター/俳人)



細田 高広 (TBWA\HAKUHODO/Executive Creative Director)
三井 明子 (ADK クリエイティブ・ワン/コピーライター、クリエイティブディレクター)
吉田 尚記 (ニッポン放送/ビジネス開発センター ネクストビジネス戦略部 副部長)

■マーケティング・エフェクティブネス部門

審査委員長

小和田 みどり (ライオン/コミュニケーションデザイン部 部長)

審査委員

上野 隆信 (大塚製薬/ニュートラシューティカルズ事業部 宣伝部 課長)
内山 健司 (マンダム/執行役員 商品企画部・コミュニケーションデザイン部・
第一マーケティング部・海外マーケティング室担当)
奥野 圭亮 (電通/クリエイティブ・ディレクター)
佐々木 亜悠 (電通/クリエイティブ・プランナー)
白井 明子 (ローソン/プロモーション部 シニアマネジャー)
鈴木 あき子 (サントリーコミュニケーションズ/宣伝部長)
高田 伸敏 (東急エージェンシー/クリエイティブ局局长 エグゼクティブクリエイティブディレクター)
辻 毅 (ADK クリエイティブ・ワン/クリエイティブ本部 第1クリエイティブ・プランニング局 局長)
二木 久乃 (博報堂/ストラテジックプランニング 部長)
藤原 かおり (カルビー/執行役員 中国フルグラ プロジェクトリーダー)
松井 美樹 (博報堂/クリエイティブ戦略局 局長、Executive Creative Director)
山口 有希子 (パナソニック コネクティッドソリューションズ社/常務、
エンタープライズマーケティング本部 本部長)

■ブランデッド・コミュニケーション部門

審査委員長

菅野 薫 (電通、Dentsu Lab Tokyo/エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター)

審査委員

石下 佳奈子 (博報堂/コピーライター、ディレクター)
井上 佳那子 (TOW/プランナー)
イム ジョンホ (mount/代表取締役、Art director)
上西 祐理 (電通/アートディレクター、グラフィックデザイナー)
えぐち りか (電通/アートディレクター、アーティスト)
大八木 翼 (SIX/クリエイティブディレクター、共同執行責任者)
尾上 永晃 (電通/プランナー)
小杉 幸一 (博報堂/クリエイティブディレクター、アートディレクター)
佐々木 康晴 (電通/第4CR プランニング局長、デジタル・クリエイティブ・センター長、
エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター)
嶋 浩一郎 (博報堂 執行役員 兼 博報堂ケトル 代表取締役社長 クリエイティブディレクター)



東畑 幸多 (電通/エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター、CMプランナー)
橋田 和明 (HASHI/クリエイティブディレクター)
八木 義博 (電通 CDC/クリエイティブディレクター、アートディレクター)
保持 壮太郎 (電通 CDC、Dentsu Lab Tokyo/コピーライター、プランナー)
米澤 香子 (電通、Dentsu Lab Tokyo/Creative Technologist)
レイ・イナモト (Inamoto & Co/Founding Partner)

※ほかご依頼中

■メディアクリエイティブ部門

審査委員長

箭内 道彦 (クリエイティブディレクター/東京藝術大学学長特別補佐・美術学部デザイン科教授)

審査委員

大澤 あつみ (トヨタ自動車/第一国内販売部 主任)
太田 雄貴 (国際フェンシング連盟 副会長/日本フェンシング協会 会長)
岡 慎太郎 (NTTドコモ/広報部 広報担当部長)
鯉淵 友康 (日本テレビ放送網/営業局スポット営業部長)
坂井 佳奈子 (ハースト婦人画報社/国際メディアグループ エル コンテンツ部 総編集長、エル・ジャポン 編集長)
佐久間 宣行 (テレビ東京/プロデューサー)
嶋田 三四郎 (博報堂 DY メディアパートナーズ/エグゼクティブマネージャー、プロデューサー)
武田 隆 (グーグル/執行役員)
中谷 弥生 (TBS テレビ/営業局営業推進センター長 兼 営業推進部長)
村本 美知 (ADK マーケティング・ソリューションズ/
エクスペリエンス・デザインセンター センター長補佐 兼 EX ソリューションユニット長)
森田 太 (TOKYO FM/執行役員 編成制作局長 兼 グランド・ロック 代表取締役)
湯川 昌明 (電通/2020 プロデュースセンター MD)

■クリエイティブイノベーション部門

審査委員長

暦本 純一 (東京大学 教授/ソニーコンピュータサイエンス研究所 副所長)

審査委員

安宅 和人 (慶應義塾大学 教授/ヤフー CSO (チーフストラテジーオフィサー))
池澤 あやか (東宝芸能/タレント、エンジニア)
稲田 雅彦 (カブク/取締役会長、創業者)
井上 裕太 (quantum/global CEO、最高投資責任者)
佐々木 康晴 (電通/第4CR プランニング局長、デジタル・クリエイティブ・センター長、エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター)
鈴木 雅穂 (トヨタ自動車/コネクティッドカンパニー ITS・コネクティッド統括部 総括・企画室 室長)
西村 真里子 (HEART CATCH/代表取締役、プロデューサー)



- 野添 剛士 (SIX／代表取締役社長、クリエイティブディレクター)
深田 昌則 (パナソニックアプライアンス社／Game Changer Catapult 代表)
朴 正義 (バスキュール／代表取締役、クリエイティブディレクター)
森岡 東洋志 (1-10drive／CTO、テクニカルディレクター)
盛島 真由 (Beyond Next Ventures ／執行役員)
矢澤 麻里子 (Plug and Play Japan／Chief Operating Officer)
米澤 香子 (電通、Dentsu Lab Tokyo／Creative Technologist)

以上